

図4.3-1 水質調査地点(案)

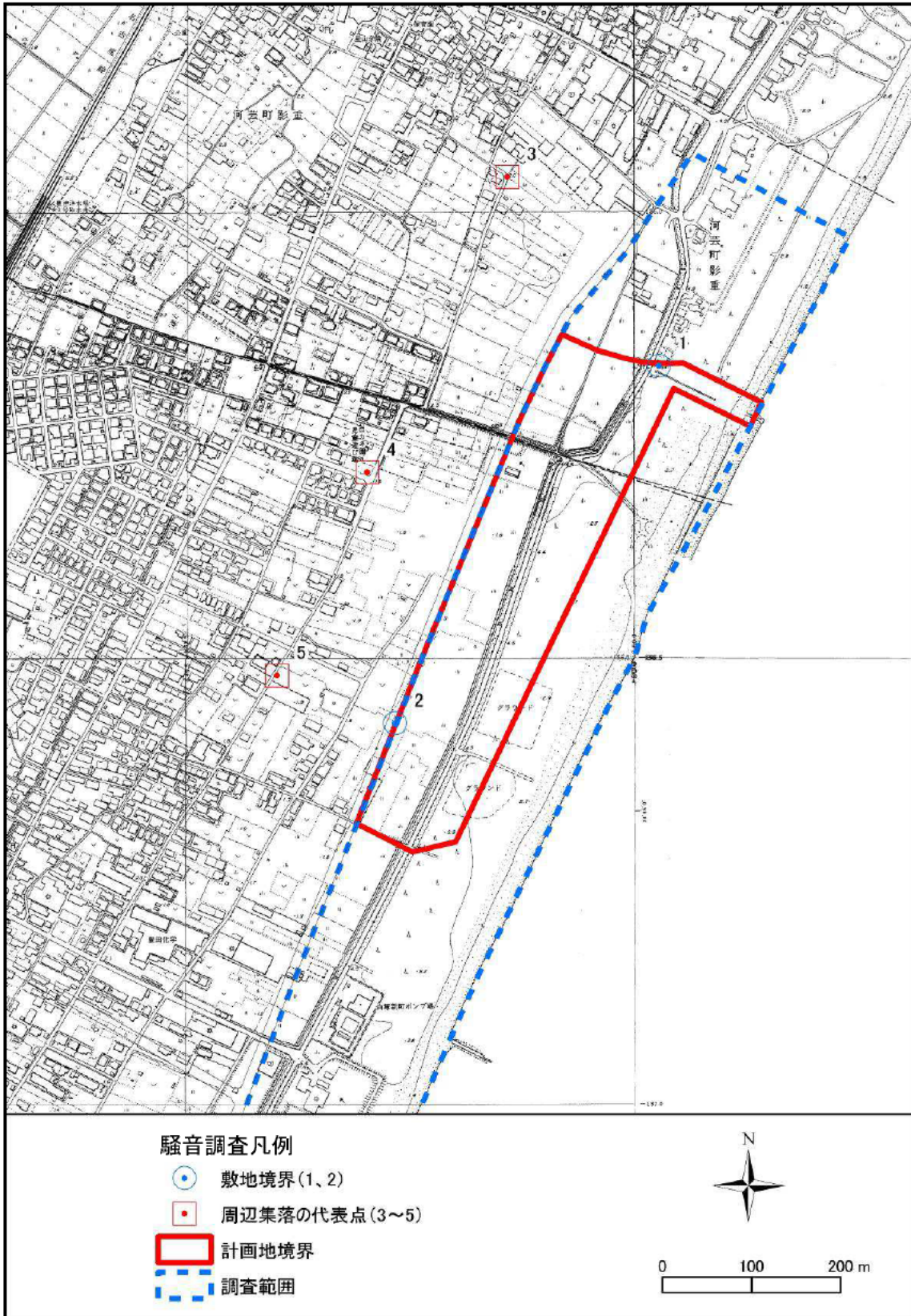


図4.3-2 騒音調査地点(案)

#### 4.3.2 動物・植物に関する事後調査計画

##### (1) 特筆すべき植物の調査

特筆すべき植物の調査は、表 4.3-3 に示す種について、図 4.3-3 に示す範囲において生育状況の確認調査を実施する。なお、特筆すべき植物の調査時期については、今年度の調査結果をふまえ、それぞれ最も繁茂する時期とする。

表4.3-3 特筆すべき植物の調査対象種（案）

種名	調査方法	調査時期
カワラナデシコ	生育範囲、密度等の調査	年1回 7～8月
ビロードテンツキ	生育範囲、密度等の調査	年1回 7～8月
ハマボウフウ	生育範囲、密度等の調査	年1回 7～8月
サデクサ	生育範囲、密度等の調査	年1回 8～9月
ハマニガナ	生育範囲、密度等の調査	年1回 8～9月

注：上記対象種の調査やその他の調査時にミズワラビ、ウスゲチョウジタデの生育状況についても確認する。(9～10月)

##### (2) 特筆すべき動物の調査

特筆すべき動物の調査は、表 4.3-4 に示す種について、図 4.3-3 に示す範囲において生息状況の確認調査を実施する。なお、特筆すべき動物の調査時期については、今年度の調査結果をふまえ、それぞれ活動期や渡来時期とする。

表4.3-4 特筆すべき動物の調査対象種（案）

分類群	種名	調査方法	調査時期
鳥類	コチドリ、シロチドリ、コアジサシ	海浜周辺の任意観察	年4回 4～7月
	オオヨシキリ	ヨシ原周辺の任意観察、営巣環境調査	年4回 5～8月
	ミユビシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、チュウシヤクシギ、アオアシシギ	海浜周辺の任意観察	年3回 4、9、1月
爬虫類	アカウミガメ	海浜周辺の任意観察	週1回 5～9月
		周辺地域における聞き取り調査	任意 5～9月
昆虫類	カワラハンミョウ(成虫、幼虫)、ヤマトバツタ	海浜周辺の調査ラインに沿っての調査	年1回、9月
	エサキアメンボ	ヨシ原周辺における調査	年1回、8～10月
魚類	メダカ	水路における生息環境、生息密度の調査	年1回、7～8月

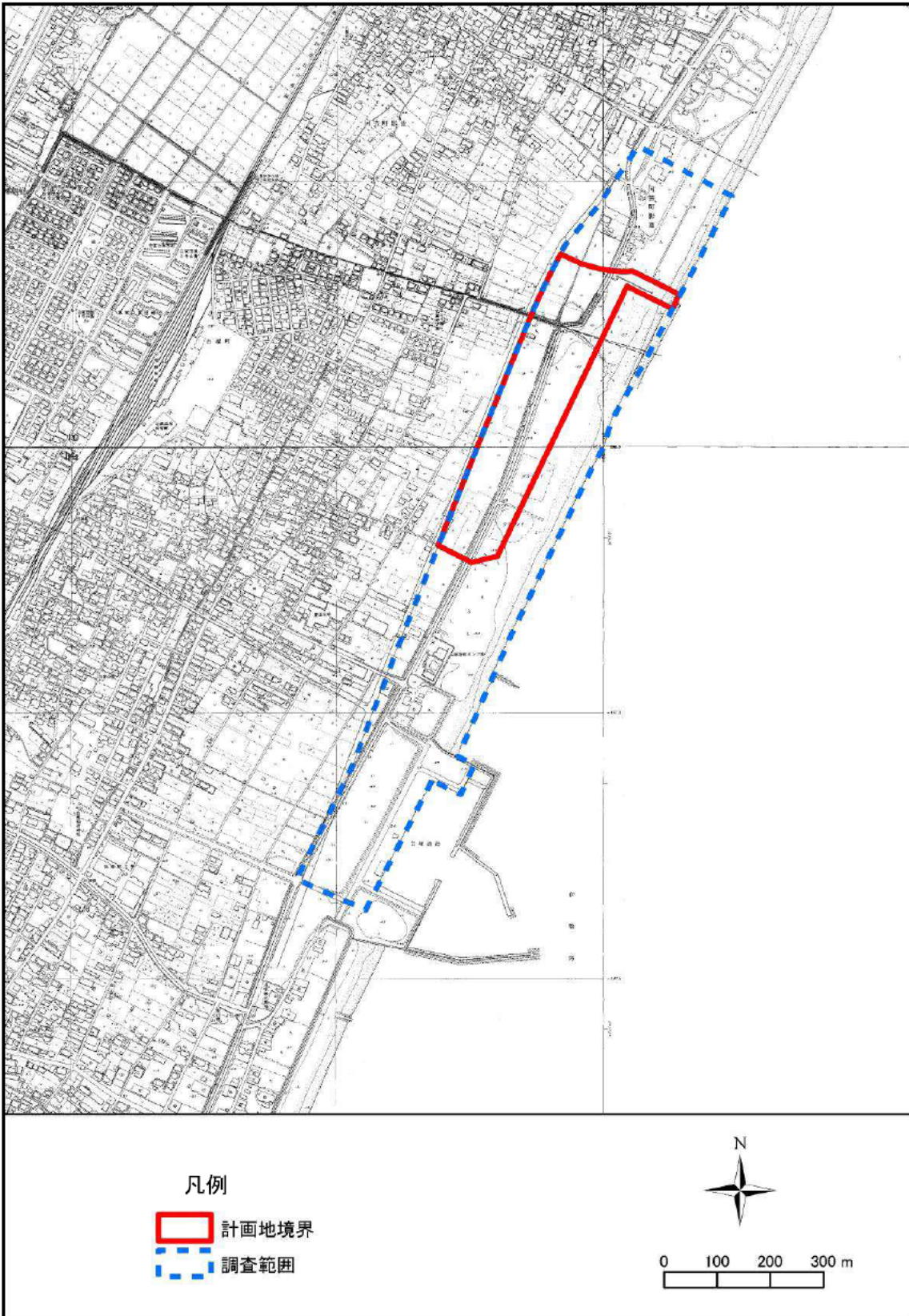


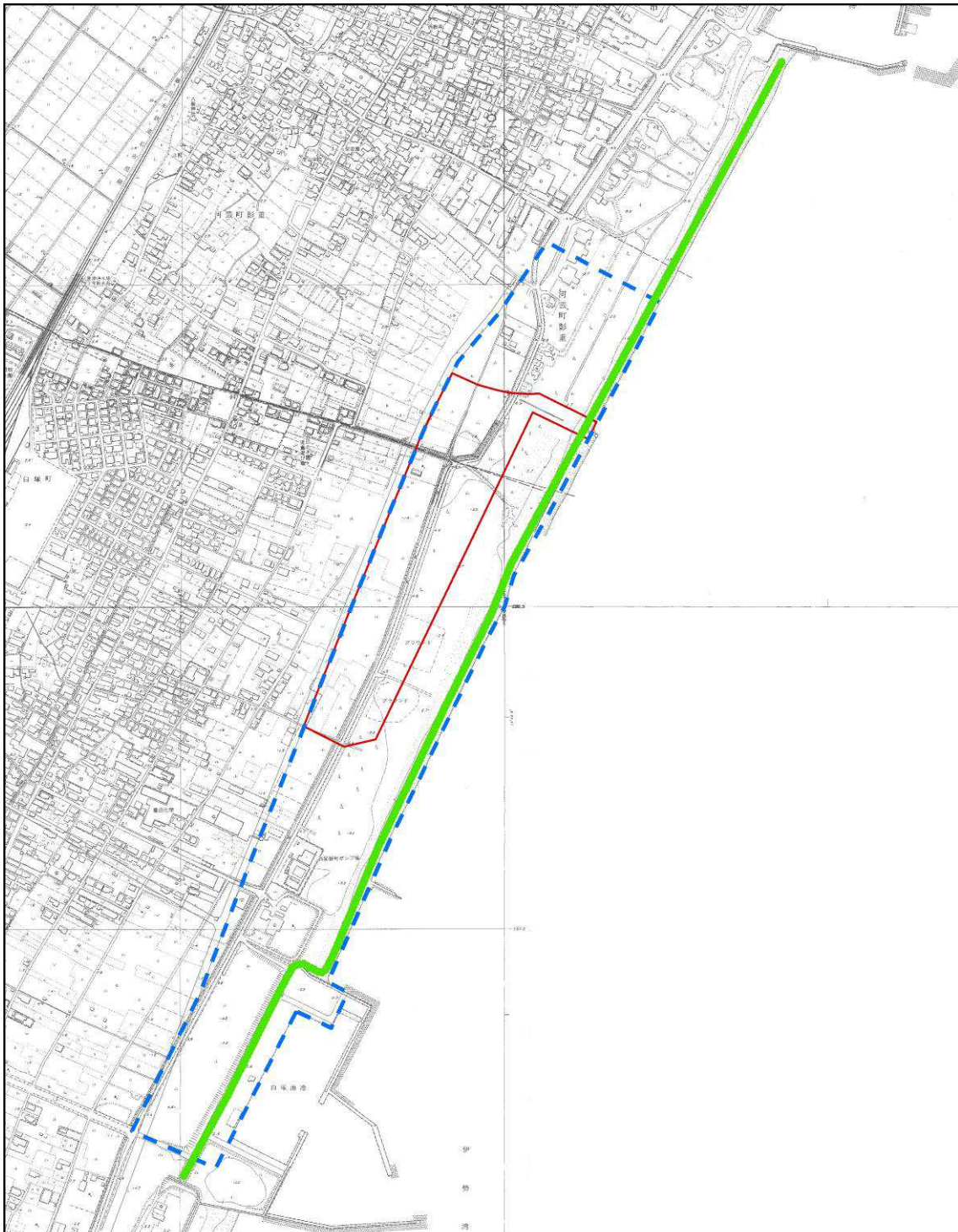
図4.3-3 特筆すべき植物・動物の調査範囲（案）

### (3) 特筆すべき動物以外の動物相の事後調査

特筆すべき動物以外の動物相の事後調査については、環境の変化に敏感に反応すると考えられる種群であるとともに、定量的な調査方法がほぼ確立されて環境変化が数値として把握できると考えられる種群である鳥類を調査対象として、表 4.3-5 に示す方法により、図 4.3-4に示す範囲で調査を実施する。

表4.3-5 動物相の事後調査実施計画（案）

調査項目	調査方法	調査時期
鳥類	ルートセンサス調査	年1回、6月



動物相の事後調査 調査ルート

- 鳥類調査ルート
- 計画地境界
- 調査範囲

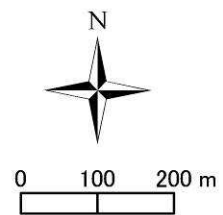


図4.3-4 動物相の事後調査 調査ルート（案）

#### 4.3.3 ヨシ原移植後の事後調査計画

ヨシ原移植後の事後調査は、図 4.3-5に示す範囲においてヨシの生育状況調査及びヨシの健全性調査を行う。なお、ヨシ原移植後の事後調査の調査時期については、ヨシ地上部の成長が終了する時期とする。

表4.3-6 ヨシ原移植後の事後調査実施計画（案）

項目	内容
ヨシの生育状況	<p>調査時期：年1回。ヨシ地上部の成長が終了する10月とする。</p> <p>調査箇所：B地区中央の既存ヨシ群落中心部及び平成24年度移植地の中心部</p> <p>※年により分布が変化する可能性がある。調査箇所は、年ごとに分布の中心を相観により抽出し、設定する。</p> <p>調査方法：各群落の中心部付近に1m×1mのコドラートを3箇所設定し、ヨシの茎本数を計数する。コドラート内のヨシについて任意に10本を抽出し、茎の高さ、太さ(G.L.上10cm及びG.L.上1.2m)を計測する。</p> <p>評価方法：平成23年度調査結果におけるヨシ群落内の地点(B-1～B-3)測定値(密度平均106本/m<sup>2</sup>、高さ207cm、太さ5.4mm)及び文献による情報<sup>1)</sup>(密度平均31.1±19.6本/m<sup>2</sup>、高さ200～225cm、太さ6.5～7.0mm)との比較により評価する。計測値が、明らかに低い数値となっていた場合には、乾燥化や競合種の被圧状況を勘案して、対策を検討する。</p>
ヨシ原の健全性	<p>調査時期：3年に1回。ヨシ地上部の成長が終了する10月とする。</p> <p>調査箇所：B地区</p> <p>調査方法：低高度空中写真を撮影し、空中写真をもとに、植生図を作成する。空中写真の撮影高度は、概ね一定とし、重ね合わせるにより精度高く経年変化を把握できるようにする。</p> <p>評価方法：重ね合わせによる、群落分布の経年変化を確認する。競合種の被圧が生じていた場合には、除去等の対策を検討する。</p>

1) 「ヨシ群落現存量等把握調査報告書(ヨシ群落調査編)」(1992 滋賀県生活環境部環境室)



図4.3-5 ヨシ原移植後の事後調査範囲（案）